

細菌性病害の防除とぶどうの無種子化に

AG アグレット液剤

成分：ストレプトマイシン硫酸塩 25.0% (ストレプトマイシンとして 20%)



農林水産省登録 第 13823 号



●特長

1.ストレプトマイシン剤で野菜、果樹などの細菌性病害に優れた効果を発揮します。

●適用病害虫又は使用目的と使用方法

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ストレプトマイシンを含む農薬の総使用回数
もも	せん孔細菌病	1000~2000倍	200~700ℓ/10a	収穫60日前まで	2回以内	散布	2回以内
キウイフルーツ	かいはよう病	1000倍 (200ppm)	—	収穫後から落葉前まで	1回	樹幹注入	4回以内 (樹幹注入は1回以内)
キャベツ	黒腐病	2000倍	100~300ℓ/10a	収穫14日前まで	2回以内	散布	2回以内
レタス	腐敗病			3回以内	3回以内		
はくさい	軟腐病	1000~2000倍	収穫7日前まで	5回以内	5回以内		
たまねぎ			1000倍	6回以内	6回以内 (種いもへの処理は1回以内)		
こんにゃく	腐敗病	1000~2000倍	100~300ℓ/10a	収穫7日前まで	5回以内	種いも散布 5~10秒間種いも浸漬 種いも散布 5~10秒間種いも浸漬 種いも散布	5回以内 (種いもへの処理は1回以内)
ばれいしょ	軟腐病	10倍	200~300ml/種いも100kg	植付前	1回		
	そうか病	60~100倍	—				
	—		2.5~3ℓ/種いも100kg				
	—	10倍	300ml/種いも100kg				
	黒あし病	60~100倍	—				
—	3ℓ/種いも100kg						
作物名	使用目的	使用濃度	使用用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ストレプトマイシンを含む農薬の総使用回数
ぶどう	無種子化	1000倍 (200ppm)	200~700ℓ/10a	満開予定日の14日前 ~開花始期	1回	散布	1回
			30~100ℓ/10a			花房散布	
—	—	—	満開予定日の14日前 ~満開期	花房浸漬			
—	—	—	—	花房浸漬 (第1回目ジベレリン 処理と併用)			

●効果・薬害等の注意

(1) 一般的注意事項

●石灰硫黄合剤、ボルドー液及び石灰、タルク、ベントナイトなどの吸着性増量剤を含有する薬剤との混用は避けて下さい。

●収穫物には使用しないでください。

●医薬として用いないでください。

●有効年月内に使用してください。

(2) 殺菌剤として散布する場合

●本剤の散布によりクロロシス(黄化現象)を生じることがあるので注意してください。特にはくさい、キャベツについては以下の事項について厳守してください。

(ア) はくさいについては高温時又は幼苗期の連続散布は避けて下さい。

(イ) キャベツについては高温時の連続散布は避けて下さい。

(3) 本剤の連続使用によって薬剤耐性菌が出現し、効果の劣った事例があるので、過度の連用を避け、なるべく作用性の異なる薬剤と組み合わせて輪番で使用してください。

(4) キウイフルーツのかいはよう病に対して樹幹注入する場合

●本法による防除を初めて実施する場合は、必ず病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。

●主幹が棚下で分岐している樹では効果が不安定であり、また、激しい薬害を生ずるので使用を避けて下さい。なお、1本仕立ての主幹の樹であっても薬害を生ずる場合があるので留意してください。

●本処理を行う場合、主幹の途中から分岐している小枝は夏季せん定時に切除しておいてください。

●使用量は棚上の樹冠面積10m²に対し3ℓの注入量を基本に樹冠面積が10m²増すごとに1ℓの割合で注入量を増加してください。

●処理方法

(ア) 主幹の地際から高さ10~30cm程度の部位に、ドリルを用いて直径5mmの注入孔を水平にあけてください。孔は幹の中心部を貫通させ、深さはなるべく反対側の皮層部の際までとってください。

(イ) 孔内の木屑をかきだして除き、注入孔の入口をゴム栓で密封してください。

(ウ) 本剤の所定量を注入器具セットの薬液容器に入れ、棚面に吊し、薬液容器の下部にあるゴム栓に通気針を刺してください。

(エ) 薬液が細管の先端に連結している注射針の先に達したら、細管内の気泡を抜き、幹の注入孔を封じているゴム栓に針を刺し込んでください。針はゴム栓の下方から上方へ上向きに刺し、細管の針に連結する部分をやや弛ませて気泡が抜けやすしてください。

(オ) 薬液の注入に要する時間は、通常2ℓ当り2時間30分前後です。

但し、夕方になると急速に薬液を吸入する力が低下するので、早朝から処理を開始し、その日の内に所定量の薬液を吸引させてください。

(カ) 注入が終了したら器具は回収してください。

(キ) 注入孔を密封しているゴム栓は梅雨明け後にははずしてください。できれば塗布剤を塗りカサの発達を促して注入孔をふさいでください。

(ク) 新たな感染などにより再処理が必要な場合には、前年の注入孔を避け、高さや位置を変えてください。

(5) ばれいしょの種いも消毒に使用の場合は下記の事項に注意してください。

① 萌芽後や種いも切断後の処理は薬害を生ずるので避け、必ず萌芽前に種いもを切断せずに処理してください。特に植付後の地温の上昇が遅れた場合には萌芽や生育遅延が助長されるので春先の気温が低い地域では注意してください。

② 浸漬処理が長くなったり、高濃度液に浸漬すると薬害が生じやすいので所定の浸漬時間及び希釈倍数を厳守してください。

③ 散布の場合は、種いもを床等に十分に広げ、種いも全体が均一にぬれるようにていねいに散布してください。

④ 10倍希釈で散布する場合には少量散布に適したノズルを使用し、薬液が種いもに均一に付着するようにていねいに散布してください。

⑤ 薬剤処理した種いもは長時間ぬれたままにしておくや発芽遅延等の薬害を生ずるので、風通しのよい場所ですみやかに乾燥させてください。

⑥ 種いもを切断する場合は処理した薬液が十分に乾いてから行ってください。

⑦ 薬剤処理した種いもは食料又は飼料には使用しないでください。

(6) ぶどう(ジベレリン液に添加)に使用する場合

●第1回目ジベレリン処理時にジベレリン液に添加して花房浸漬処理し、第2回目ジベレリン処理(単用)を必ず行ってください

●展着剤は加用しないでください。

●薬液は使用の都度調製し、なるべく調製当日に使用してください。また、調製液はなるべく日陰においてください。

●必ず処理適期に使用し、所定濃度を厳守してください。

●使用に当たっては、ジベレリンの使用上の注意事項を厳守してください。

●本剤の使用に当たっては、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。

●新品種に本剤をはじめ使用する場合は、使用者の責任において事前に薬効・薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。

●安全使用上の注意

(1) 誤飲などのないように注意してください。

(2) 使用の際は防護マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。

(3) 作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをしてください。



●使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。

●使用後の空袋は、圃場などに放置せず、適切に処理してください。●防除日誌をつけましょう。

お問い合わせ/ご注文は